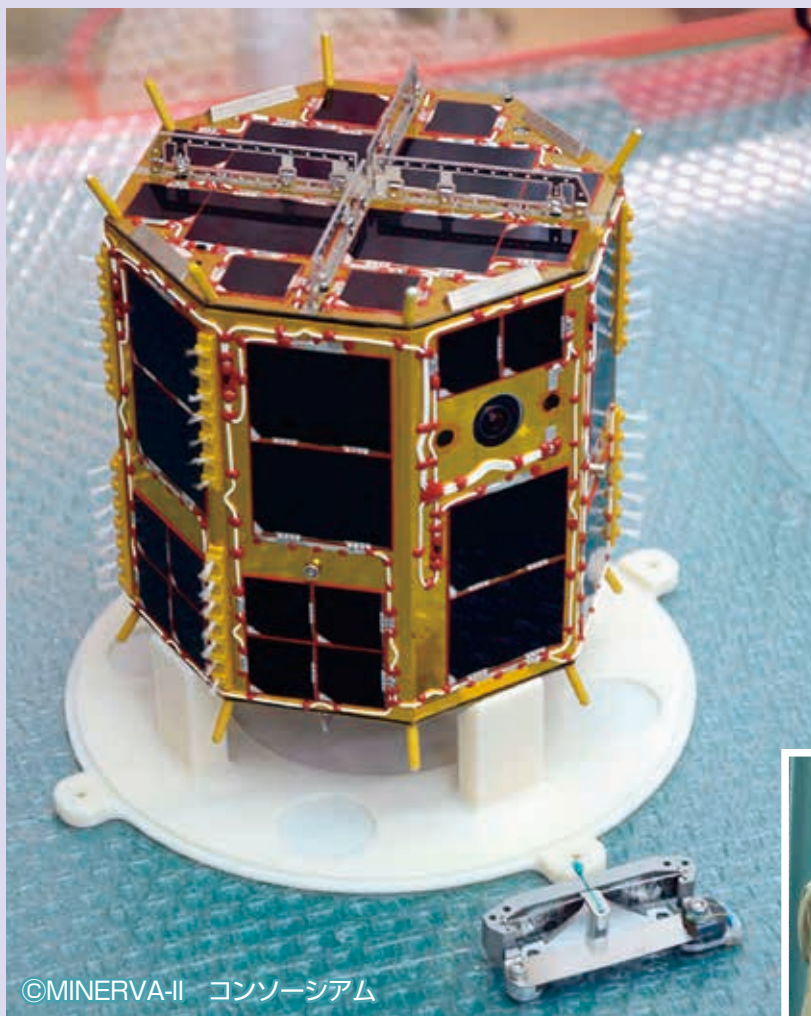


工学部だより

2015.3
No.20



©MINERVA-II コンソーシアム



写真提供：JAXA



ブレーメン大学にて
左から峯田教授、風間さん、菅井さん、妻木教授

『はやぶさ2』に搭載された 環境駆動型移動機構

(6頁本文参照)

目次

居酒屋での話 飯塚工学部長	2
ごあいさつ 上村後援会長	3
学務委員会だより	4
工学部学生相談室より	4
特集 世界に羽ばたけ工学部	
山形大学工学部国際交流センター主催	
英会話活動について	5
アメリカで学ぶ学生を見て感じた事	5
はやぶさ2に搭載された環境駆動型移動機構 ..	6
「保護者懇談会」で工学部をもっと知っては！ ..	6
学科（専攻）だより	7
平成26年度卒業・修了予定者の就職内定・	
進学予定一覧	12

平成25年度卒業・修了者の就職状況	13
トピックス	
学生による就職活動体験談	14
社会人1年目の体験談	14
平成27年度工学部年間予定表	14
平成25年度一般会計収支決算書及び	
平成26年度一般会計収支予算書	15
平成26年度工学部後援会役員名簿	16
お知らせ	16
イベント紹介	
山形から未来を照らすサイエンス	16



居酒屋での話

山形大学工学部長 飯塚 博

工学部後援会の皆様には、在学生の活動支援を教員と連携して展開して頂き、また、工学部諸行事や教員活動へのご支援も頂き、感謝申し上げます。

先日、研究室出身の卒業生が来学し、その夜、学生達と一緒に焼鳥屋に行きました。焼鳥で酒を飲みながら、神の存在、世間と個人、赤ワインの飲み方の話などをしました。「自分の息子とはこんな話をしたことないな」などと思いながら、研究室のゼミとは違った話題で楽しい時間を過ごしました。そのときに感じたことを以下に述べます。

○神の存在

一人の学生が「神は存在するか」と質問してきました。見えない世界の話ですので、見える世界における理論をいつも考えている科学者の端くれとしては、安易に回答することができません。ただ、次のような話をしました。「ものすごく悩んだり苦しんだりした後に、ハッと何かに気づき、解決の糸口が見つかったときに、あなたはそれをどう感じるか」と。神様が救ってくれたと思う人には「神」が存在するのだろうし、これは自分がこれまで身に付けた能力の結果だと思う人には神は存在しないのだと思う。また、これまでに自分に関わった多くの人達からの教訓に感謝し、自然の流れの中に自分を感じる人には東洋的な「天理」が存在するのだと思う。「そこが分かれ目かな」と回答。

その後、キリスト教の話になりました。2ヶ月程前、研究室出身学生の結婚式があり、お祝いの挨拶を述べてきました。それに先立ち、教会で挙式、皆で賛美歌を歌いました。その賛美歌の歌詞についての印象を学生達に話しました。そこから、キリストとキリスト教会の話になりました。「キリスト本人が活動した領域はどのくらいの広さだと思うか」と聞くと、「地中海沿岸の・・・」とか、「アラビア半島の・・・」という回答。私が「サンダルを履いて移動できる程度の範囲なので、この置賜盆地くらいかな」と言うと、全員が驚いていました。この話の真偽はわかりませんが、どこかの本で読んだことを伝えました。不確かな記憶を頼りに、一冊の本を紹介しました。

すると学生達はスマホを取り出し、「この本ですか」と直ぐに探し出しました。さすがは情報化社会です。それから、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の話。「先生と同じことを、マレーシアから来た留学生が言っていた」と誰かが言いました。大学には学びのチャンスが多く転がっています。見逃さないことが大切です。

○世間の存在

次に、「この前の研究室芋煮会のときに、先生が言った親の自殺の話、すごく印象に残っています」という話が出ました。前回の研究室芋煮会の頃に、子が殺人を犯し、その親がその後自殺をしたという事件がありました。芋煮会の時、その話をしたのでした。学生に「なぜ、事件を起こしていない親が自殺をしたのか」と問いかけました。西洋の社会では神と個人との契約が第一にありますが、私達が住む東洋の社会には「世間」という見えない世界があります。その中で私達は自分を制御したり節度を守ったりしながら生活しています。優劣の問題ではありません。最近、学生に対して「社会人基礎力」を身につけることの大切さが指摘されます。その内容の多くは、学生の世間から一般社会の世間への移行の話だと理解しています。

最近の学生はあまり酒を飲みません。上記の研究室芋煮会に、学生はビールを買って来ませんでした。「先生用」ということで720mlの日本酒一本を渡されました。学生達と騒ぐのも楽しいですが、上記のような話をしながら、与えられた少しの酒を飲むのも楽しいと思いました。私達は物事を認識するときに、何かを基準にして相対的に認識しています。その中にどっぷりと浸かっていると、自分が居る世界がどうなっているのかに気付かないことが常です。学生に刺激を与えながら、そして私も学生から刺激を受けながら、研究室生活を楽しんでいます。



ごあいさつ

山形大学工学部後援会長 上村 勲 二

工学部後援会会員の皆様には日頃から会の活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

保護者懇談会、就職活動と助成内容を報告します。

保護者懇談会は、今年度で全国を3ブロックに分けてから4年目となり、下表のように実施しました。

地 域	開催日	開催地	参加者数
関東・甲信越地区	9/6(土)	東京都	42名
北海道・東北地区	10/11(土)	米沢市	約320名
中部・西部地区	11/9(日)	名古屋市	26名

参加者数が昨年度よりも5割増えました。懇談会が皆様から徐々に認められて頂いておりますことに、感謝申し上げます、今後も精進して参りたいと思います。

参加された方からは「直接先生から個別的に親身になって相談に乗って頂き、丁寧な説明・助言を頂きました。とても参考になり、不安が解消されました」など有難い感想を頂きました。

「参加者の増加を計るPRをして欲しい」との御意見を頂きました。今後は後援会のホームページを制作して案内・PRできればと考えます。

懇談会での御質問や御要望の回答と対応策は山形大学工学部ホームページに掲載しております。

来年度も次の予定で計画しています。開催前に御案内申し上げますが、他会場の出席も結構ですので、御参加をお待ちしています。

地 域	開催予定日	開催予定地
関東・甲信越地区	9月5日(土)	東京都
北海道・東北地区	10月10日(土)	米沢市
中部・西部地区	11月15日(日)	名古屋市

今年度の**就職活動**は12月から始まりました。好景気を反映して内定率は96.2%（1月末現在）と昨年度よりも約2.5%上昇しています。今後も連携を密にして全員内定を目指したいと思います。

来年度からは、就職活動は3月から始まります。合同企業説明会は3月7日・8日に米沢市営体育館で行われ、約320社の企業が参加予定です。就職活動の開始時期は4か月遅れますが、大学では万全の対応をしますので、よろしく御協力お願い致します。

同窓会である米沢工業会から多くの支援を頂いており

ます。従来から実施しているものには、学科毎に行うOB・OGの企業人による講演会とホームカミングデイ当日のOB・OGと語る会（企業研究会）があります。

昨年2月から工学部長飯塚先生の依頼で始まりましたOBによる就職支援では学生の相談活動を行い、後援会から長谷部副会長と私が手伝っております。更に8月から米沢工業会主催で山形県内の企業見学会を開始しました。10月に米沢で開催しました保護者懇談会の企業研修会には、OBのアキレス株式会社伊藤守社長を講師にお迎えし、御講演は保護者の皆様から大好評を頂きました。

この度、大学から後援会に次の**支援要請**があり、会長・副会長会議で検討し、理事会で承認されました。

工学部教育環境整備事業として各棟空調設備（GHP方式）の点検と更新費用の助成で、この助成は昨年度から始めました。GHP方式空調設備は国費で設置し、点検更新は大学経費で行いますが、設備の維持管理は適時的確に行う必要があります。点検更新は今後も継続して発生します。今年度の点検更新費用910万円を施設協力金（積立金）から助成することとなりました。

なお、施設協力金は独立法人化以降の運営費交付金減少の不足分を助成する目的で積み立てています。

工学部は、教育・研究・社会連携・地域貢献等の事業を活発に展開しています。教育研究の財政基盤である国からの運営費交付金は、独立法人化以降毎年1%削減が続く、加えて電気料や諸物価の値上げが重なり、財政状況は厳しく、支援要請となったものでした。

更に、今後の後援会活動を一層意義あるものにするために、**他大学の視察**を行っております。どの大学にもそれぞれの大学の特色があり、それに応じた後援会活動を実施されており、学ぶことが数多くあります。

今年度は信州大学工学部後援会を視察しました。山形大学と同じように、1年教養教育は松本市、2年からの専門教育は長野市で学びます。県内出身の入学者比率は24%と県外出身者が多いのも似ています。信州大学の広報活動は活発で、後援会もホームページを持ち、会員に情報を発信し、協力を得るという積極的な活動でした。本会でも是非参考にしたいと意を強くしたところでした。

今後とも御支援と御協力をお願い致します。

学務委員会だより

学務委員会委員長 **多賀谷 英 幸**
(大学院理工学研究科 バイオ化学工学分野 教授)



学務委員会は、講義や試験など勉学に係わる事項のみならず、奨学金や健康管理そして課外活動や学生寮に係わる事項などを通し、学生の皆さんの学生生活に広く関わっております。

グローバル化や少子高齢化などが社会変化の重要な要素として明確になる中、専門的職業人の育成を目指す工学部には、社会からの高い期待と要望が寄せられております。とは言え、工学系分野でも、理学系分野とともに専門領域の細分化が進行し、それに並行して、医・農・薬学系にとどまらず文系を含む広い分野との学際領域や複合領域がうまれつつあります。

本学部の各学科はこれらの幅広い専門分野にも対応し、各学科それぞれの視点から、基盤・専門教育から卒業研究まで、明確な教育フローを構築し、社会の要求に応える事の出来る教育を行っております。全科目に対し学生によって行われている継続的な授

業改善アンケートは、結果が学生に閲覧され、教員による講義内容の向上や、学生による授業態度の向上などに寄与しております。

本学部には基礎・専門分野の知識能力の充実のみならず、課題発見解決力やコミュニケーションスキルなどの応用的能力、そして倫理観や社会的責任などの道徳的能力を身につけた人材の育成が期待されています。

3年次後期から研究室に配属を行う学科が増えました。このような教員や違う学年生と接する多様な機会を通して、応用的能力や道徳的能力そしてチームワークなどの社会性の醸成が図られています。

年2回、保護者の方々には成績確認票を送付し、学修の状況をお知らせしております。次回からは送付方法が変わり、封書で成績通知が行われますのでご承知おください。

後援会の皆様の工学部へのご支援に深く感謝すると共に、今後も後援会の皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

工学部学生相談室より

～生きることと悩むこと～

学生相談室カウンセラー（臨床心理士）
准教授 **高 橋 国 法**

最近ではあまり『モラトリアム』という言葉聞きませんが、少し前まで大学はモラトリアムの時期だと言われていました。この言葉は青年の心理的社会的状況を説明するのに心理学者のエリック・エリクソンが使い始めたとされています。モラトリアムとは、人が成長し、社会的義務の遂行を猶予される期間と理解できますが、現代の大学生は、このモラトリアムを享受しているのでしょうか。

カウンセラーとしては、大学生の皆様が大学在学中、試行錯誤を繰り返し、将来について考えて欲しいと期待しますが、現代の学生は修学や就職活動のため、そのような時間的余裕、精神的余裕を持ちにくいかもしれません。もはや大学生はモラトリアムできなくなっているようにも感じます。

ところで全国的に大学生の自殺率は高止まり傾向にあり、警鐘が鳴らされています。自殺の原因はさ

まざまですが、平成24年の警察庁の資料では「就職失敗」と「進路に関する悩み」をあわせると、自殺の原因の約25%を占めています。大学をいかに締めくくるのかの大変さを垣間見るようです。



最近ではキャリア教育が声高に叫ばれていますが、キャリア教育では、どんな職業に就くのかではなく、どのように自分の人生を送りたいのか、生きたいのかをより重視します。大学時代、自らモラトリアム期間をつくり出し、どのように生きるのかを考えて（悩んで）、生き抜いて欲しいと切に願います。

学生相談室は皆様の悩み(思考すること)をサポート致します。保護者の皆様におかれましてもお気軽にご利用ください。

特集

世界に羽ばたけ工学部

山形大学工学部国際交流センター主催 英会話活動について

国際交流センター助教
ジスク, マシュー



山形大学工学部国際交流センターでは2012年よりネイティブの教員と交流し、生きた英語に触れる機会として、様々な活動を行っております。その活動は大きく、毎日のお昼に行われるLunchtime Chat、週1回のBoard Game Night、

月1回のMovie Nightの3つに分けられます。

Lunchtime Chatは毎日(月～金)のお昼休みの時間(12:00～13:00)に、1号館のゼミ室1・2で行われます。ネイティブ教員が、英語で様々なトピックについて学生達と会話します。ネイティブ教員が全部で3人おり(2015年1月現在)、日によって取り上げる内容が変わります。毎日実施しているため、日常的に英語に触れる絶好な機会となっております。

Board Game Nightは2014年10月から始まった新企画です。毎週水曜日18:00～21:00に国際交流ラウンジ(生協の2階。なお、2015年4月頃から1号館に移転予定)で行われます。留学生や海外留学経験者の学生とアメリ

カやヨーロッパのボードゲームを英語で遊ぶ人気イベントです。ゲームの種類はカードゲームやテーブルトップRPG等、豊富にあります。ゲームを楽しみながら、気軽に英語に触れる機会として、大好評を得ています。

Movie Nightは毎月第4金曜日18:00～21:00に国際交流ラウンジで行われます。海外の映画を英語音声・英語字幕で鑑賞するイベントです。映画鑑賞後にはネイティブ教員と留学生と映画の内容について簡単なディスカッションを行い、教員から映画の中で使われている英語表現について説明を受けます。

以上のような活動を通して、国際交流センターでは、できるだけ頻繁に、かつ楽しく英語に触れる機会を学生に提供するように努めております。英語を気軽な環境で使ってみたい方、または国際交流に興味のある方の参加を心よりお待ちしております。



Board Game Nightの活動風景

アメリカで学ぶ学生を見て感じた事

工学部機能高分子工学科 3年 渡 邊 健一郎

こんにちは。機能高分子工学科、平成24年度入学の渡邊健一郎と申します。現在、僕はアメリカのコロラド州立大学に短期留学しております。英語、アメリカンスタディーズ、そして半導体工学を学んでおります。こちらでの体験を通して思うところを、僭越ながら述べていただきます。

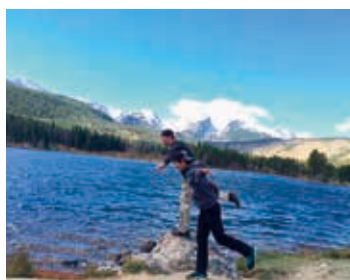
さて早速ですが、こちらに来てまず驚いたことは、アジア人学生の言語実用能力の高さです。韓国人、中国人、ベトナム人、台湾人、タイ人などいろいろな国や地域の学生と出会い、話をしました。驚くことに、こちらで知り合ったベトナム人(7、8人は)全員、ほぼ完璧に流暢に英語を話します。

また、台湾出身で同い年の友人は、英語と中国語を話し、日本語もA4紙2ページ分を丸々暗記して演説できる程の能力があります。同年齢でこんなにも言語能力

に差が出るものかと驚きました。

日本で育ち日本の大学に通っていると、「英語なんて、TOEICで皆よりすこし良い点数をとればそれで十分で、話せるようになりたいとは思わない。英語を話すことができる人はそういった才能がある人だけで、周りも自分と同じように日本語しか話せないのだからわざわざ英語を必死に勉強しなくてもいい。」と考えがちだと思います。僕もそうでした。

話す言葉の数で人間の人格や価値は測れないものの、人間は言葉によってコミュニケーションをとり、考え、悩み、思いのたけを伝えます。それぞれの言葉にはその人独特の概念や感覚もあります。日本語以外の言語を介して日本人以外の人と触れ合うことは人間に深みを与えてくれるのではないかと、これまでの留学生活を経て感じます。このように、「言語能力」という切り口で日本と世界を俯瞰していると考察する癖がついたことが、留学から賜ったもののひとつかなと思っています。



アメリカ人の友人と
ロッキーマウンテン国立公園にて



祝 はやぶさ2に搭載された環境駆動型移動機構

機械システム工学科 教授 妻木 勇一

2014年12月3日、小惑星探査機「はやぶさ2」が種子島宇宙センターから打ち上げられました。はやぶさ2には4台の小型探査ロボットが搭載されています。そのうちの一台は、東北大・山形大・東京電機大・東京理科大・大阪大が主なメンバーである大学コンソーシアムで開発されました。小惑星表面へ投下され、重力が非常に小さい環境において、4種類の異なる移動機構を検証する工学ミッションが主な目的です。我々はその内の一つの移動機構を開発しました。表紙写真の右下に写っている銀色の小さな装置です。

2010年春に大学コンソーシアムで探査ロボットの検討が始まりました。当初は参加していなかったのですが、この年の秋にまだ検討段階だという話を聞いたことが、このプロジェクトに参加するきっかけでした。次世代ロボットデザインセンターとして何か提案できないだろうかという話から、『環境駆動型移動機構』というアイデアを思いつきました。小惑星では昼と夜とで大きな温度差が生まれます。探査機にとって大変厳しい環境ですが、熱で力を発生する形状記憶合金やバイメタルを利用することで、エネルギー源として活用できるはずです。

早速、プロトタイプの開発に取り掛かりました。また、形状記憶合金のことに詳しいMEMSが専門の峯田貴先生にも声を掛け、一緒に開発を始めました。最終的にはバイメタルを利用しておもりを動かし、その反動で本体を動かす2種類の機構を妻木研究室と峯田研究室でそれぞれ開発し組み合わせました。電源もコンピュータも必要とせず、朝と夕の2回ホップ（ジャンプ）して移動します。バイメタルの寿命は長いので、長期に渡る移動が期待できます。

2013年には、ドイツブレーメン大学まで行き、JAXA/DLRと共同で無重力落下実験も行いました。移動機構そのものはただの機械ですが、実験を行い、データを取得するために、様々な電子機器を組み込み、プログラムを開発する必要があります。実験装置はメカトロニクスの塊でした。ドイツには、峯田先生と共に、風間亮君（妻木研）と菅井敦久君（峯田研）の2名の院生を連れて行きました。夕食はいつも深夜になるハードスケジュールでしたが、無事動作することが確認できました。

探査する小惑星は未知の環境です。このため設計仕様が明確でない機器を開発しなければならないことが最大の難関でした。少しでも動く可能性を高めるために、試行錯誤を繰り返しながら、研究室でも数多くの実験を繰り返しました。担当した学生らの頑張りがなければ完成しなかったでしょう。また、ロボットとMEMSの研究室が一緒になって取り組んだことで完成度を高めることができました。

はやぶさ2が小惑星に到着するのは2018年です。それまで環境駆動型移動機構は糸に縛られて固定されています。

小惑星表面で無事糸が焼切られ、探査ロボットがホップしたという吉報が届くことを皆で待ち望んでいます。



イラスト：池下章裕氏



「保護者懇談会」で工学部をもっと知ってほしい！

工学部後援会副会長 長谷部 利 信

大学に子供を預けている保護者にとって一番の関心事は学部4年時における進路問題、大学院進学か就職だと思います。保護者懇談会は今年度も3地区で行われ、関東・甲信越地区は東京都内、北海道・東北地区は地元の米沢市、中部・西部地区は名古屋市に於いて開催しました。私も米沢の保護者懇談会に出席し、第一部に行われた①飯塚工学部長による工学部の経歴とこれから目指す工学部のあり方・方向性について②兒玉副工学部長による成績表の見方、大学院進学と就職について③先輩であるアキレス社長の伊藤様による「会社が求める人材」と題する講演会をたいへん興味深く

聞くことができました。出席された保護者は約320名、3年生の保護者が多かったと思います。米沢に移る2年生の時に出席されて工学部を深く知り、子供さんと早くから進路についてコミュニケーションをしておくことが大事だと思います。第二部では、学科ごとに分かれて個別相談会を行い、学生の生活状況・成績の他、個々の質問等について担当教員が対応しました。アンケート結果は「大学の事が良く理解できた」「今後も継続してほしい」等、好評の御意見が沢山あり先生方もホッとしています。残念ながら参加できなかった保護者の方にも工学部をご理解いただけるホームページを作成・掲載するようフォローして参ります。

学科(専攻)だより

機能高分子工学科

大学のグローバル化が叫ばれる昨今ですが、まずはそれに関する話題です。機能高分子工学科からの大学院進学先となる機能高分子工学および有機デバイス工学の2専攻では、国際連携プログラムを実施しており、希望する学生から英語の成績で選抜を行い、1週間程度の日程で近隣諸国の大学等への派遣を行っています。初年度の2012年には前期課程6名、後期課程6名が教職員4名とともに台湾へ出向き、台湾大学、中央大学、交通大学、清華大学、中原大学との学術交流を行いました。翌年からはフレックス大学院の学生とともに訪問を継続しており、2013年には前期課程6名（フレックス大学院の学生は除く、以下同様）の学生が韓国の漢陽大学、高麗大学、サムスン第一毛織研究所を、2014年には前期課程4名の学生が中国上海の東華大学、復旦大学、ボッシュ、三菱化学上海、BASFをそれぞれ訪れています。訪問先の大学では合同シンポジウムなどが企画されており、参加学生にとっては、英語での研究発表や学生間の議論などを通じて、世界に向けた視野を開かせる貴重な体験となっています。また

教育プログラム長 教授 岡 田 修 司

2014年度当初には、Sukumaran 准教授を機能高分子工学専攻の教員として迎えており、学部・大学院における英語による講義など、グローバル化を意識した教育活動も少しずつ実施していく予定です。



話は変わりますが、2014年度末に新しい研究施設として、環境配慮型高分子の開発や、有機材料の精密成形加工技術の確立を目的としたグリーンマテリアル成形加工研究センター（センター長：伊藤浩志教授）がキャンパス内に竣工しました。このセンターは大学内の組織として2011年に発足しておりますが、その設置および運営には機能高分子工学科の先生方が多く関わっております。地域のものづくり研究拠点形成のために、建物内には企業との共同研究実施も可能なスペースも用意されており、今回の建屋の完成によって、機能性高分子材料に関する研究の加速とともに、地域創生への寄与も大いに期待されます。

物質化学工学科

大学で化学を学ぶことができる学科は理学部と工学部にあります。理学部が真理の探究を目指しているのに対し、工学部では企業で活躍する技術者、研究者の育成を目指しています。企業においてはチームを組んで仕事を行うためにコミュニケーション能力が重要視されます。物質化学工学科では学生を3年次後期から仮配属の形で研究室に配属させています。これは学生が4年次の卒業研究にスムーズに入れることを目的とする以外に先輩にあたる大学院生や教員と接しコミュニケーション能力を育てることも目的としています。



企業見学バスツアーの様子
バイオベンチャー企業スパイバーにて

4年生になると就職か大学院進学かの進路選択を行う必要があります。物質化学工学科学部学生の大学院進学率は50%程度で、毎年数名は他大学の大学院にも

教育プログラム長 教授 會 田 忠 弘

進学しています。就職希望者には学科内の就職担当教員が様々な面でアドバイスを行っております。また、学科内のネットワークを通して学生が自分のパソコン上で物質化学工学科への求人の情報、各企業の受験状況を確認できます。



本年度は夏休み期間中に米沢工業会と米沢商工会議所の支援の下で、物質化学工学科、バイオ化学工学科の学部生及び大学院生を対象とした県内企業の日帰り見学バスツアーを行いました。県内企業の見学会ということで、県内出身者しか集まらないと予想していましたが、1回目の置賜、村山地区企業の見学会で48名、2回目の庄内地区の企業見学会では21名の参加者がありました。学生の関心も高く、継続して行うことができると考えております。今後も様々な形で学生のサポートを行っていきたいと考えております。保護者の皆様には暖かいご支援とご協力をお願い致します。

バイオ化学工学科

バイオ化学工学科は、少子・高齢化社会のニーズに応える研究者・技術者の育成を目的に、平成22年度に設立されました。新学科の目的を達成するために、これまでの化学系学科ではカバーできない部分を補う独自の教育プログラムを実践してきました。本学科では、1年次から化学と生物学を総合的に学び、2年次からは専門教育として物理化学、無機・有機化学、生物科学の幅広い分野の講義と実習を行い、化学と生命科学に関する高度な専門知識を学びます。また、3年次の後期（6学期）には各研究室に仮配属を行います。これにより、先端



インターンシップ報告会(3年生)の様子

研究を通して実践的な研究手法を学び、みずから適切に判断できる能力を備えた専門技術者・研究者を養成で

教育プログラム長 教授 阿部 宏之

きると考えています。

本学科は、昨年度初めての卒業生を社会へ送り出しました。本学科の教員は、卒業生の受け皿となる就職先の開拓や進学に向けて万全の体制をつくってきました。その成果もあって、第一期生の多くは化学系企業に加え、製薬・医療系の企業に就職しました。また、第二期生もほぼ全員が早い段階で進路を決めることができました。



本学科は、医療、創薬、環境、エネルギー分野の先端研究を行っている教員を擁し、研究のレベル及び設備の面で東日本における有力な工学部バイオ系学科です。お陰様で第一期生・第二期生は、順調なスタートを切ることができました。本学科はこれから着実に実績を積み上げていかなければなりません。保護者及び後援会の皆様方の温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

応用生命システム工学科

応用生命システム工学科では16名の教員と5名の技術職員スタッフが教育研究にあたっています。生命の素晴らしいシステムに学び、その仕組みを解明して先端技術の開発に応用したい、これが私どもの教育研究の目標です。教員の研究対象は、分子、蛋白レベルから細胞、組織、個体のレベルまで、専門分野は電子回路、生体材料、生物物理、医工学、ロボティクス、再生医工学、医用画像工学、ソフトコンピューティングなど学科内で異分野交流が可能なほど多岐に亘っております。本学科が目指している人材の育成はシステムに強い発想豊かな総合エンジニアです。高齢化社会が益々進展していく中、エレクトロニクスや情報コンピュータ、制御に加えて生命系の科目を学び、工学的視点から医療や健康医学、福祉工学、生活の質を向上させるような新たな技術の創出ができる人材を育成したいと考えております。今年度の就職・進学状況をご報告します。4年生の内48%が大学院に進学



教員と学生間の教育についての本音トーク

教育プログラム長 教授 新関 久一

する予定です。進学志向の学生が多い状況は学科創設以来変わっておりません。就職内定率は26年12月末で学部4年生は97%、大学院生は96%となっています。当学科に対する企業の認識も浸透してきたように思います。



毎年、医療機器や福祉ロボットの開発、再生医療工学を学びたいと志してくる新入生には心強いものを感じますが、大学入試合格という目標を達成してしまうと、中にはモチベーションを保てず勉学に集中できない学生も見受けられます。1年次学生に対するスタートアップセミナーでは、各教員が取り組んでいる研究内容を分かり易く説明し、興味ある研究に取り組んでいる自分の将来の姿をイメージしてもらうことで、学生諸君のそれぞれの目標を改めて認識してもらうよう努めています。また、定期的に学生と教育に関して本音で話し合う場を設けております。これからも学生、卒業修了生からの意見や保護者の皆様からのフィードバックを受けて、より良い教育プログラムを構築していきたいと考えておりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

情報科学科

情報科学科は、教職員23名、学生約320名（1学年約80名）で構成され、学生は情報科学に関する様々な科目の勉学や先進的な研究に取り組んでいます。

情報科学科の教育理念は「情報科学の基礎理論からそれらを応用した種々の分野を学び、新しい分野を切り開く能力を体得する」というものであります。この理念に基づいて、学生は1、2年次に基礎をしっかり学び、3、4年次に応用力並びに卒業研究を通して新しい分野を切り開く能力を体得しています。学生は授業でも研究でも非常に真面目に取り組んでいます。就職先の企業へのアンケートでも山形大学の卒業生は非常に真面目であるという感想が寄せられています。一方、おとなしいという感想も寄せら



卒業研究の風景

れます。自己主張が強いのも困りますが、自分の考えや意見を相手に論理的に伝えるというのが重要だと思います。これに関

教育プログラム長 教授 小山 明 夫

しても、卒業研究や演習科目を通して指導しておりますが、今後さらに強化する必要があると考えています。

次に進路に関してですが、今年度の就職状況は景気が上向いた影響もあり、非常に順調で昨年度の同時期より高い内定率になっております。内定先は約7割が情報通信やソフトウェア産業であり、この分野の人気の毎年高くなっております。また、進学に関しては、希望者のほとんどが山形大学大学院に進学していますが、他の学科に比べて大学院進学率が低いように感じられます。大学院では、専門分野をより深く学ぶことにより、研究者・技術者としての高いスキルを身につけることができますので、希望者がもっと増えることを願っております。

今後も情報科学科の教職員一丸となって学生の教育や研究指導および進路指導に努力して参る所存ですので、保護者並びに後援会の皆様の更なるご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



電気電子工学科

電気電子工学科では、基礎学力と応用力を備え、高度電子化社会で貢献できる自立した人材の育成をめざしています。2008年からJABEE（日本技術者教育認定機構）認定のもとで教育体制を運営してきましたが、社会のニーズや学生の変化に迅速に対応できるよう、この認定を解消することといたしました。これまで、学生自ら目標を立て、アドバイザー教員とともにその達成度を評価し学習を進めていくなどの取り組みを行ってきました。このように培ってきた教育システムの維持、改善をはかることにより、学生と今まで以上に向き合った教育を進めていく所存です。本年度の取り組みの一つとして、テスター製作、それを用いた電気回路測定を1年次導入教育に取り入れました。電気電子工学科を希望する新入生でも、ラジオ製作などエレクトロニクス工作を経験した学生が皆無であり、実践を通して本学科の主要科目である「電気回路」の講義（座学）の理解の促進をはかろうとする試みです。

就職内定状況は、12月末時点で大学院100%、学

教育プログラム長 教授 稲葉 信 幸

部91%となっています。電機メーカーに限ればエレクトロニクス分野を中心に厳しい状況が続いていますが、ハイブリッド自動車のように他の分野でも電気技術が多様されてきており、電気技術者が必要とされていま

す。また、震災復興、東京オリンピック招致に伴うインフラ整備、団塊世代の定年退職による後継人材育成などから、あらゆる業種で電気系人材が求められています。これまでの不況時代を考えると、就職できるときに就職したほうが良いとの考えから学部卒で就職する傾向が見受けられますが、自分が何をやりたいか、10年、20年先の将来設計を考えて、より専門性を深めて社会に巣立って行くことも一考してもらいたいと思っています。

今後とも皆様のご理解、ご支援をお願い申し上げます。



機械システム工学科

機械システム工学科では、現在29名の教員と13名の職員が学生の教育を担当・支援しています。機械系学科としては、全国的に見ても教員数が多い方です。現在の機械工学は、様々な産業を支える基盤となっています。日本機械学会の部門数は21を数え、宇宙、バイオ、環境、ロボット、マイクロ・ナノ等々その関連領域は益々広がっています。教員数が多いという事は、それだけ多様な専門分野をカバーしているということでもあります。最先端の研究を行っている様々な教員から幅広い分野の最新の知識を学ぶことができる本学科は、社会の要望や学生達の知的好奇心に十分応えられる陣容を誇っていると言えるでしょう。

昨年はJABEE（日本技術者教育認定機構）を審査しました。本学科の学部教育プログラムは2004年にJABEEの認定を受け、ほぼ5年毎に審査を受けています。正式な審査結果が届くのはまだ先です

教育プログラム長 教授 妻 木 勇 一

が、学科一丸となって作り上げてきた教育プログラムに対し、高い評価を頂いています。

一方、約半数の学生が大学院へ進学しています。多様化し、専門化する機械工学を学ぶためには学部の4年間だけでは必ずしも十分ではなくなってきました。院生になると専門的な教育を受けるだけでなく、論文作成や学会発表を通して、研究者としての素養も磨くことが出来ます。国際会議で発表する学生も増えています。院生に対する企業からの評価も高いので、大学院への進学もぜひご検討下さい。

社会のニーズに応え、世界で活躍できる機械エンジニアを育成するために引き続き鋭意努力し続けますので、保護者の皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。



システム創成工学科

国立大学初のフレックスコースとして設置されたシステム創成工学科を開設して5年が経過し、世の中の認知度も上がり、関西から受験する学生もチラホラでてくるようになりました。うれしいかぎりです。

ところで、皆さんは「大学で学ぶ」とはどういうことだとお考えでしょうか？私は「プロ知識を学び、専門知識を身につけ、社会で自分の役割を見つけ巣立っていく」ことではないかと考えます。高校までは、国語や数学といった分野を問わず必要となる基礎知識を積み上げていくのですが、大学ではある特定の分野に関して深く掘り下げて勉強することになります。例え

教育プログラム長 教授 近 藤 康 雄

ば、サッカーでJリーガーを目指す人は、サッカーというスポーツを徹底的に極めようと日々努力することになります。

ところが、現実の大学生で「私は〇〇が開発できるエンジニアになりたい」の〇〇をはっきり言える人は極めて少数派で、大学入学後に「本当は□□学科ではなく、△△学科に行けばよかった」と嘆く学生も少なくありません。このようなミスマッチを減らすために、近年「進学振り分け制度」を採用する大学が増えています。これは、大学1～2年生の間は、自分が興味ある授業を自由に聴講しながら自分の進むべき方向を見つけ出し、その後、専門分野を掘り下げて勉強するシステムです。実はシステム創成工学科は、進学振り分け制度を山形大学工学部で唯一取り入れている学科で、専門分野の勉強がつまらない、といった理由で退学していった学生は今のところ一人もいません。加えて、システム創成工学科の学費は昼間コースの半額です。どこに行けばよいかわからないという高校生の方々、一度システム創成工学科のホームページを覗いてみてください。



1期生の卒業研究発表会(H25年度)

有機デバイス工学専攻

有機デバイス工学専攻は平成27年4月に9年目を迎えます。ご存知のように、本専攻は従来の学問体系の枠組みを超えて、有機デバイスの専門的知識を持った人材の育成を目的として設立された日本で初めての専攻です。平成27年3月に修了予定の第7期学生は28名であり、社会的に就職状況も厳しい中、100%近くの学生が就職もしくは博士後期課程に進学されます。

本専攻の現状として、平成27年度は大学院博士前期の学生定員25名を大きく上回る、27名の学生が博士前期課程に入学する予定です。有機デバイスという将来性豊かな新しい分野で世界最先端の研究・教育に触れたいという学生が多いことによるものと感じております。

現在、有機デバイス工学専攻では、教授9名、准教授6名、助教5名の体制になっており、一部の先生方は、他専攻との兼任もなされております。有機デバイス工学は、「有機エレクトロニクス」と呼ばれる有機分子やポリマー材料を用いてフラットパネルディスプレイ、半導体、照明材料、電池など様々な電子デバイスを創製する学問分野であり、省エネルギー・環境対応型、低炭素化技術としても大いに期待されております。

専攻長 教授 伊藤 浩 志



す。本専攻の先生方は本分野の研究に注力されており、益々活躍をされております。昨年度の話題としては、時任教員のグループが、世界で初めて印刷で食品ラップより薄い電子回路作製に成功したこと、本専攻とも関連する山形大学有機エレクトロニクス研究センター（ROEL）と有機エレクトロニクスイノベーションセンター（INOEL）の研究グループが、従来よりも少ない電流で高輝度な薄型・軽量の有機ELディスプレイの試作に成功したことなどが挙げられます。本分野の研究は益々活発に行われ、数多くの成果を世に出しております。これらの多大な成果は、決して教員個人の能力が優れているからだけではなく、学生諸君の協力と成長によるものでもあります。本専攻で学ぶ学生たちのモチベーションも高く、精力的に勉学に励んでいます。このように本専攻では最先端の研究開発を通して、旺盛な好奇心を持ち意欲ある学生の育成を行っております。今後とも皆様方の暖かいご支援を宜しくお願い申し上げます。

ものづくり技術経営学専攻

日本全体で景気は緩やかに回復といいながら、地方、中小企業、家計にとって景気改善の実感は無という実情です。消費増税の反動、先送りされた再増税等、国内景気を左右する不確定要素は根強く残っています。地球規模の大きな自然災害も実生活と景気に影響を与えています。円安は自動車、産業機器等の輸出を増やし大手企業は利益を大きく改善しています。輸入原材料の高騰で食品業界をはじめ実生活に直結する物資は値上げが増えています。原油価格に大きく依存するエネルギー、株価動向、貿易収支など日本経済はグローバル動向に大きく依存しています。2015年も、現状を正確に把握して先を見据え、俯瞰と連携を考えた価値創成への実践が必須です。

本専攻では、グローバル視点と地域貢献視点を深耕し、多様性と専門性を高める教育研究を本年も推進します。

留学生：ボリビア国費留学1期生は修士論文研究を本格化し、昨年10月に2期生4名も入学しました。日英併記教材



トヨタ元町工場にてボリビア留学生達

使用、英語でのQ&A等も実施し、日本人学生にも大きな刺激になっています。彼らには、リチウム関連専門講義、日本企業

専攻長 教授 児玉 直 樹



の実地視察、企業人による特別講義を必須科目としました。トヨタ、デンソー等の日本を代表する製造企業が賛同して特別講義実施にご協力いただき、また山形県内地元企業もインターンシップ受入れと学生指導にご尽力いただいています。アジア各地からの留学生も、ベトナム消費動向研究、中国設備投資状況研究、嗜好品詳細調査研究等、出身国の強みと日本の強みを具体化明確化する研究を進めています。留学生は地域イベントにも積極的に参加してくれています。

社会人学生：地域インキュベーション推進研究、地元企業の自社課題解決イノベーション研究、地元企業連携研究等に取り組んでいます。研究支援員兼学生の地元金融機関出向者や製造業出身学生も、国際事業化研究センターと連携した地域産業活性化研究に取り組んでいます。

県内重要課題対応：製造業の他にも、「やまがた6次産業ビジネススクール」への協力、J R東日本協力の「観光経営学特論」公開講座を今年も開講します。

このように本専攻は、クロスカルチャと地域貢献を教育研究で実践しています。2015年は、「地域価値創成」と言う大きな目標を教育研究で実践し、学問体系にする取組みをさらに強力に進めていきます。

皆様のなご一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成26年度卒業・修了予定者の就職内定・進学予定先一覧

1. 工学部

(1月末日現在)

コース	学科	就職内定先・進学予定先	(順不同)
昼 間 ・ A コ ー ス	機能高分子工学科	JA羽茂、アイジー工業㈱、岩城ダイカスト工業㈱、ウェルファームフーズ㈱、㈱朝日ラバー、㈱アドバネクス、㈱北日本金型、㈱コヤマ、㈱セゾンファクトリー、㈱大昌電子、㈱野村メッキ、㈱山田製作所、協栄産業㈱、㈱ケーユーホールディングス、高圧化工㈱、サカタ理化学㈱、大成ラミック㈱、南部化成㈱、日新製薬㈱、日本郵便㈱、東維興業㈱、日立コンシューママーケティング㈱、富士通㈱、富士ペークライト㈱、公務員(2人)(市川市職員、警視庁)、山形大学大学院(69人(内：フレックス大学院1人))、北陸先端技術大学院大学(2人)、新潟大学大学院、宇都宮大学大学院、福島大学、奈良先端科学技術大学院大学	
	物質化学工学科	古川エヌ・デー・ケー㈱、三菱化学エンジニアリング㈱、豊和繊維工業㈱、太子食品工業㈱、㈱丹羽鉄工所、ジーエルサイエンス㈱、千住金属工業㈱、千代田工商㈱、ジャトコ㈱、恒和薬品㈱、㈱かわでん、ネクストエナジーアンドリソース㈱、太陽日酸エンジニアリング㈱、㈱ブルボン、新菱冷熱工業㈱、高砂熱学工業㈱(2人)、東亜道路工業㈱、朋和産業㈱、大昌電子㈱、ディップソール㈱、アマノ㈱、NOK㈱、弘進ゴム㈱、トッパン・フォームズ㈱、新日本空調㈱、シーアイ化成㈱、TPR工業㈱、㈱妙徳、マーレエンジンコンポーネンツジャパン㈱、協栄産業㈱、日研総業㈱、公務員(5人)(利府町職員、下野市職員、檜葉町職員、野木町職員、茨城県警)、山形大学大学院(41人)、東京工業大学大学院(3人)、東北大学大学院	
	バイオ化学工学科	三和缶詰㈱、㈱キミカ、ラピスセミコンダクタ宮城㈱、㈱タチエス、㈱夢テクノロジー、㈱リード、㈱国井組、㈱カネエスエ、㈱カモス、科研製薬㈱、東芝環境ソリューション㈱、ハイテックスシステムズ㈱、㈱エフコム、日本生命(相)、ホクト㈱、シーアイ化成㈱、㈱ビー・アール・オー、大昌電子㈱、理科研㈱、㈱ニッセー、ボーライト㈱、チョーヤ梅酒㈱、㈱アストロステージ、㈱オートテックニッパジャパン、㈱アステック、水澤化学工業㈱、㈱ミドリホクヨー、公務員(3人)(寒河江市職員、郡山市職員、福島県職員)、山形大学大学院(25人)、東北大学大学院(3人)、名古屋大学大学院	
	応用生命システム工学科	イトアンド㈱、㈱長岡歯車製作所、日本光電工業㈱、フジクラ電装㈱、コバレントマテリアル㈱、㈱シー・エー・エム、コスモテレコム㈱、山形パナソニック㈱、㈱ステップ、能美防災㈱、㈱エイチワン、日立アロカメディカル㈱、東北電力㈱、東北バイオニアEG㈱、㈱東光高岳、㈱協和エクシオ、ソフトバンク㈱、ニプロ㈱、白河オリンパス㈱、㈱フォーラムエンジニアリング、NECネットワークプロダクツ㈱、㈱カワサキ機工、日本システムエイト㈱、高橋電機㈱、㈱富士通ビー・エス・シー、㈱株ソフト開発、㈱VSN、公務員(4人)(青森県警、青森市職員、航空自衛隊員、北上市職員)、山形大学大学院(27人)、東北大学大学院、千葉大学大学院	
	情報科学科	サイバーコム㈱、㈱ユアテック、㈱富士通ビー・エス・シー、㈱ビッツ、セントラルソフト㈱、㈱日立ソリューションズ東日本(2人)、東日本旅客鉄道㈱、東北電力㈱、㈱ヨドバシカメラ、アルパイン㈱、㈱ネスコ、トヨタ自動車㈱、東京コンピュータサービス㈱、デジタル・インフォメーション・テクノロジー㈱、㈱ソフトクリエイトホールディングス、㈱ソフトウェアコントロール、デンソーテクノ㈱、自営(起業)、大興電子通信㈱、東北NSソリューションズ㈱、㈱日立情報通信エンジニアリング、日本光電工業㈱、コムシス情報システム㈱、シグマトロン㈱、㈱データシステム米沢、日本データスキル㈱、日本プロセス㈱、シグマアイティエス㈱、㈱NTT・エムイー、㈱テクノプロ・デザイン(2人)、山形パナソニック㈱、東芝デジタルメディアエンジニアリング㈱、㈱バース情報科学研究所、ユニバーサル・インフォメーション・サービス㈱、サクサホールディングス㈱、㈱協栄システムズ、サンデンシステムエンジニアリング㈱、山形大学職員、公務員(2人)(新庄市職員、三川町職員)、山形大学大学院(25人)、筑波大学大学院	
	電気電子工学科	NECディスプレイソリューションズ㈱、アルプス電気㈱、日特エンジニアリング㈱、日本工営㈱、㈱日立ハイテクフィールドディング、三菱電機ビルテクノサービス㈱(2人)、ミツワ電子㈱、国際通信企画㈱、㈱沖電気コミュニケーションシステムズ、㈱ユアテック(3人)、NECフィールドディング㈱、東北発電工業㈱、ソフトウェア情報開発㈱、シーケーエンジニアリング㈱、㈱ワコム、SMC㈱、インテック㈱、東芝プラントシステム㈱、日本光電工業㈱、㈱登米村田製作所、THKインテックス㈱、㈱住田光学ガラス、NECソリューションイノベーター㈱、日本電設工業㈱、東北電力㈱、日立工機㈱、㈱パナソニックシステムネットワークス開発研究所、明電プラントシステムズ㈱、東光電気工事㈱、東日本旅客鉄道㈱(2人)、セイコーNPC㈱、㈱東日本計算センター、岡谷精立工業㈱、㈱岩手朝日テレビ、㈱加藤電機製作所、㈱サンテック、裕幸計装㈱、東部建設㈱、公務員(7人)(山形県公立高校教員、経済産業省職員、海上自衛隊員、国土交通省職員、福島市職員、愛知県警、米沢市職員)、山形大学大学院(29人)、東北大学大学院	
	機械システム工学科	JFE鋼板㈱、加藤製作所㈱、㈱太平洋エンジニアリング、日本航空電子工業㈱、白河オリンパス㈱、日本水産㈱、いすゞ自動車㈱、富士重工工業㈱、三菱電機ビルテクノサービス㈱、SMC㈱、三建設備工業㈱、山形航空電子㈱、スズキ㈱、テルモ㈱、東北発電工業㈱、米沢放電工業㈱、テクノエイド㈱、林テレンプ㈱、日本電産コパル㈱、㈱JSP、紀ノ川商事㈱、トヨタ自動車㈱、千住金属工業㈱、㈱瀬瀬満和製作所、シロキ工業㈱、東北交通機械㈱、丸山商事㈱、富士テクノサービス㈱、㈱アルプス技研、東芝プラントシステム㈱、㈱ヨコオ、ダイキアルミ(マレーシア)、三井金属工業㈱、新東工業㈱、トヨタ自動車東日本㈱、富士機工㈱、㈱カンセツ(2人)、公務員(3人)(長野市職員、群馬県警、自衛隊)、山形大学大学院(55人(内：フレックス大学院1人))、東京大学大学院、東北大学大学院、宇都宮大学大学院、横浜国立大学大学院	
	システム創成工学科	ケイテック㈱、東洋水産㈱、㈱ササキコーポレーション、㈱デンテック、三菱マテリアルテクノ㈱、協栄産業㈱、スズキ㈱、オートテックニッパジャパン㈱、シグマトロン㈱、㈱小森コーポレーション、㈱セゾンファクトリー、㈱かわでん、㈱システムロード、㈱シンクロン、山形パナソニック㈱、㈱日立建機カミーノ、ミツミ電機㈱、㈱関電工、富士工業㈱、新興プランテック㈱、日本電子㈱、山形大学大学院(14人)	
	物質化学工学科	フジクラ電装㈱、㈱福島理化学研究所	
	情報科学科	㈱エステック	
	機械システム工学科	日研総業㈱、㈱ケーヒン	

2. 大学院理工学研究科博士前期課程(工学系)

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
機能高分子工学専攻	㈱細川洋行、アイジー工業㈱、ポリプラスチックス㈱、伊藤忠エネクス㈱、㈱JSP、旭ファイバーグラス㈱、矢崎総業㈱、東レフィルム加工㈱、市光工業㈱、東邦化学工業㈱、日本原燃㈱、積水化学工業㈱、㈱シェルター、電気化学工業㈱、㈱セゾンファクトリー、オカモト㈱、㈱ヨロズ、三井化学東セロ㈱、大協薬品工業㈱、東邦アセチレン㈱、JAおきたま、㈱東洋クオリティワン、㈱潤工社、スズキ㈱、加美電子㈱、水野テクニクス㈱、㈱巴川製紙所、日立化成㈱、アイカ工業㈱、㈱高木化学研究所、パナック工業㈱、デクセリアルズ㈱、河西工業㈱、東洋ゴム工業㈱、㈱スマートファイバーデザイン研究所、山形大学大学院博士後期課程(3人(内：フレックス大学院3人))	
有機デバイス工学専攻	ソニーストレージメディア・アンド・デバイス㈱、東レバッテリーセパレータフィルム㈱、㈱フレッシュシステム、東京エレクトロン宮城㈱、富士通ワイヤレスシステムズ㈱、横浜ゴム㈱、㈱東北フジクラ、トヨタ自動車東日本㈱、アルプス電気㈱、イリソ電子工業㈱、(一財)材料科学技術振興財団、㈱郡山塗装、ニチレキ㈱、アキレス㈱、㈱ジャパンディスプレイ(2人)、キヤノン化成㈱、エヌ・イーケムキャット㈱、信越化学工業㈱、㈱パーカーコーポレーション、住友大阪セメント㈱、パナソニック㈱、㈱潤工社、ラピスセミコンダクタ㈱、山形大学大学院博士後期課程(4人(内：フレックス大学院4人))	

物質化学工学専攻	大日本印刷㈱、田島ルーフィング㈱(2人)、鬼怒川ゴム工業㈱、㈱クリナップ、TPR㈱、㈱トッパンTDCレーベル、保土谷化学工業㈱、デクセリアルズ㈱、扶桑化学工業㈱、大日精化学工業㈱、㈱京浜工業所、日本ケミコン㈱、電気化学工業㈱、カシヨー㈱、富士電機㈱、シロキ工業㈱、JFEテクノリサーチ㈱、パナソニック㈱、オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社、㈱大昌電子、㈱トキワ、テクノモリオカ㈱、日新製薬㈱(2人)、ディップソール㈱(2人)、㈱ミクニ、㈱ナカボーテック、出光興産㈱、日本工機㈱、㈱京三製作所、㈱リンナイ、㈱大気社、武蔵エンジニアリング㈱、㈱高木化学研究所、理研計器㈱、住友ゴム工業㈱、レンゴー㈱、山形大学大学院博士後期課程(3人)
バイオ化学工学専攻	ベーリンガーインゲルハイムジャパン㈱、川口化学工業㈱、フジクラ電装㈱、㈱東海メディカルプロダクツ、千住金属工業㈱、JAはが野、日新製薬㈱(2人)、㈱芝浦電子、住江織物㈱、㈱フコク、(学)佐藤栄学園、オート化学㈱、大日本印刷㈱、㈱柴田合成、イハラケミカル工業㈱、大内新興化学工業㈱、東洋製罐㈱、ニプロ㈱、高級アルコール工業㈱、日本特殊陶器㈱、JSR㈱、上田石灰製造㈱、浜理薬品工業㈱、神東塗料㈱、山形大学大学院博士後期課程(3人(内:フレックス大学院1人))
応用生命システム工学専攻	㈱東海理化、㈱ケービン、㈱エクサ、㈱ソフトウェアサービス、DOWAホールディングス㈱、東北電力㈱、興和電子工業㈱、沖電気防災㈱、㈱日立ハイシステム21、東芝システムテクノロジ㈱、㈱ボルテージ、㈱日立メディコ、セイコーNPC㈱、東北NSソリューションズ㈱、㈱ミクニ、東洋製罐㈱、日伸ソフトウェア㈱、テルモ㈱、太平洋セメント㈱、ニプロ㈱、アルプス電気㈱、㈱シンフォディア・フィル、日本電子㈱、㈱北村製作所、公務員(2人)(宮城県教育委員会、須賀川市職員)、山形大学大学院博士後期課程(1人(内:フレックス大学院1人))
情報科学専攻	㈱ソリトシシステムズ、㈱日立システムズ、㈱日立公共システム、東芝ソリューション㈱、大日本印刷㈱、農中情報システム㈱、富士工業㈱、㈱アマダ、キヤノンイメージシステム㈱、㈱データシステムズ、三菱電機インフォメーションシステムズ㈱、住友電工システムソリューション㈱、東日本旅客鉄道㈱、三菱スペース・ソフトウェア㈱、㈱博報堂プロダクツ、㈱京三製作所、㈱日立産業制御ソリューションズ、スズキ㈱、NECソリューションイノベータ㈱、㈱亜細亜情報システム、東名通信工業㈱
電気電子工学専攻	フジクリン工業㈱、東京計器㈱、㈱村田製作所、日本信号㈱、㈱テレビユー山形、東日本旅客鉄道㈱(2人)、住友化学㈱、日本電設工業㈱、日本光電工業㈱、日本電産エレシス㈱、大井電気㈱、東日本電信電話㈱、日本航空電子工業㈱、アスモ㈱、エスクウェア㈱、東北電力㈱、㈱加藤製作所、三菱電機エンジニアリング㈱、㈱日立アドバンスシステムズ、㈱村田製作所、㈱ケービン、アルプス電気㈱、新電元工業㈱、曙ブレーキ㈱、㈱関電工、東洋メディック㈱、ヒロセ電機㈱、新コスモス電機㈱、㈱エヌエフ回路設計ブロック、双信電機㈱、大日本印刷㈱、名古屋大学大学院
機械システム工学専攻	㈱シークス、スズキ㈱、㈱仙台ニコン(2人)、㈱コガネイ、㈱朝日ラバー、日精㈱、NOK㈱(2人)、日野自動車㈱(2人)、三井造船㈱、日本発条㈱、㈱ナカニシ(2人)、パナソニックサイクルテック㈱、古賀機械金属㈱、THKインテックス㈱、㈱ケービン、トヨタ自動車㈱、㈱不二越(2人)、東芝テック㈱、いすゞ自動車㈱(2人)、出光興産㈱、日立金属㈱、三菱重工業㈱、㈱GSユアサ、㈱ニデック、東京電力㈱、㈱三五、三菱マテリアル㈱、トヨタテクニカルディベロップメント㈱、日本航空電子工業㈱、横浜ゴム㈱、東海旅客鉄道㈱、㈱明電舎、ニプロ㈱、日特エンジニアリング㈱、東日本旅客鉄道㈱、富士重工業㈱、積水化成工業㈱、山形大学大学院博士後期課程(1人(内:フレックス大学院1人))
ものづくり技術経営学専攻	NOK㈱、曙ブレーキ工業㈱、ハイメカ㈱、㈱フジクラ、有職者(2人)

3. 大学院理工学研究科博士後期課程（工学系）

専攻	就職内定先・進学予定先	(順不同)
有機材料工学専攻	九州大学(助教)、大内新興化学工業㈱、JSR㈱、有職者(1人)	
バイオ工学専攻	㈱帝人	
ものづくり技術経営学専攻	有職者(1人)	

平成25年度 卒業・修了者の就職状況

学科・専攻等 事項		工学部 昼間・Aコース								工学部 フレックス・Bコース				大学院理工学研究科 博士前期課程										合 計	
		機能 高分子工 学専攻	物質化 学工学 専攻	バイオ 化学工 学専攻	応用生 命シス テム工 学専攻	情 報 科 学 専攻	電 気 電 子 工 学 専攻	機 械 シ ス テム工 学専攻	計	シ ス テム創 成工 学専攻	応用生 命シス テム工 学専攻	電 気 電 子 工 学 専攻	機 械 シ ス テム工 学専攻	計	機能 高分子 工学専 攻	有機デ バイス 工学専 攻	物質化 学工学 専攻	バイオ 化学工 学専攻	応用生 命シス テム工 学専攻	情 報 科 学 専攻	電 気 電 子 工 学 専攻	機 械 シ ス テム工 学専攻	ものづ くり技 術経営 学専攻		計
概況	卒 業 ・ 修 了 者 数	(11) 110	(20) 82	(30) 56	(16) 68	(6) 77	(1) 77	(1) 108	(85) 578	(9) 51	(0) 2	(0) 1	(0) 5	(9) 59	(4) 34	(2) 46	(7) 35	(6) 32	(3) 28	(0) 27	(0) 42	(0) 52	(0) 5	(22) 301	(116) 938
	就 職 希 望 者 数	(2) 33	(11) 44	(12) 26	(7) 32	(5) 36	(0) 37	(0) 44	(37) 252	(3) 20	(0) 0	(0) 1	(0) 3	(3) 24	(4) 34	(1) 39	(7) 32	(6) 29	(1) 23	(0) 27	(0) 38	(0) 50	(0) 5	(19) 277	(59) 553
	自 営 希 望 者 数	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 1	(0) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 2
	進 学 希 望 者 数	(9) 72	(9) 36	(16) 27	(6) 30	(0) 31	(1) 35	(1) 61	(42) 292	(6) 29	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(6) 30	(0) 0	(1) 7	(0) 2	(0) 3	(2) 2	(0) 0	(0) 3	(0) 2	(0) 0	(3) 19	(51) 341
	そ の 他	(0) 5	(0) 2	(2) 3	(3) 6	(1) 10	(0) 4	(0) 2	(6) 32	(0) 2	(0) 1	(0) 0	(0) 2	(0) 5	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 3	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 5	(6) 42
	就 職 者 数	(2) 31	(11) 42	(12) 26	(7) 32	(5) 34	(0) 38	(0) 45	(37) 248	(3) 20	(0) 0	(0) 0	(0) 2	(3) 22	(4) 32	(1) 39	(7) 32	(6) 29	(1) 23	(0) 26	(0) 38	(0) 50	(0) 5	(19) 274	(59) 544
未就職者数	(0) 2	(0) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 6	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 1	(0) 2	(0) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 3	(0) 11	
就職率(%)		81.6	91.3	89.7	84.2	73.9	90.5	95.7	86.7	90.9	0.0	0.0	40.0	75.9	94.1	100.0	97.0	100.0	88.5	96.3	97.4	100.0	100.0	97.2	91.1

[注] () 内の数字は女子を示し内数である。

学生による就職活動体験談～就活までの道のり～

工学部電気電子工学科 4年
鈴木 翔



皆さん、就活についてどう考えていますか？

…私は、辛く大変なものだと考えていました。勉強が忙しいから、まだ時間はあるし、何をやればいいかわからないし…と何かと理由をつけて考えないように学生生活の大半を過ごしていました。皆さんはどうでしょうか？…少なくとも私と同じか、

考えているけど、何をやればいいかわからない人が多数だと思います。

そこで、今回は皆さんに、私の経験を含めながら、一番大切な就活までの準備についてお話しします。

正直、就活はとても大変です。友達が内定をもらっている中、自分だけが就活をしないといけない状況や何社もの会社から落とされるなどという事は普通にあります。しかし、これは就活まで何も準備をしていない人にしか、起こりません。

では、準備とは、一体何をすればよいのでしょうか。

それは「積極的に挑戦する事」です。とにかくあらゆる場所や機会に飛び込み、様々な経験をする。その中で、「自分自身について知る」。また、様々な経験は「コミュニケーション力、解決能力」や「学生時代何をしたか」など、就活の全てに繋がります。

では、行動といっても何をすればよいのでしょうか。

それは、サークルでも、合コンでも、研究でも、友達と遊ぶでも何でもよいのです。多くの人と関わり、たくさんの経験は、きっと意味のあるものになります。更に欲を言えば、

面倒くさい事や辛い事を率先して行ってください。そして、その中で「どう取り組むか」また「楽しみ」を見つけてください。

実際、私も多くの事に挑戦してきました。バイト、サークルなど一般的な事から、就活イベントの参加や運営、地域復興支援など…短時間でやれることをやり切りました。多くの人と関わり、壁にぶつかる経験があるからこそ、辛い中でどう行動すれば楽しめるか、成長出来るのか。そして、その積み重ねがあったからこそ、第一志望の会社から内定をもらえたと思っています。

最後に、私が会社の人事の方々から直接聞いた、「内定をだしたくなる学生」について話したいと思います。それは、「大学でたくさん遊んで、経験を積んでいる人」、「辛い就活を楽しんでいる人」、「目標を常に持ち生活し、会社に入ってもやりたい事がたくさんある人」、「目をキラキラして話をする人」、だそうです。更に、こういう学生の共通する点として、面接中に話していてとても「楽しい」とも言っていました。つまり、就活の面接というのは、如何に人事と楽しくお話しをし、良い印象を持ってもらうかにあります。ここだけの話、面接官は、多くの学生を見ているので一癖も二癖もある人が多いです。その人達と楽しくお話しをするというのは、普通の学生にとって、とても難しい事です。そのため、多くの人と関わり、たくさんの経験をして、場数を踏んで欲しいのです。また、単純に残り短い学生生活を楽しんでください！就活も成功し、学生生活もとても楽しかった…といって山形大学を卒業して欲しいと思います。



社会人1年目の体験談

日本特殊陶業(株)技術開発本部 藤堂 末那
(H23年度工学部物質化学工学科卒業)

山形大学在学中に夢を見つけ、夢を実現できる会社への入社を決めました。

2014年4月。新鮮な好奇心を胸に社会人の仲間入りをしました。

社会人としての適応力・基礎知識などについて、研修を通して学びました。社会で求められる能力は「ペーパーテストの点稼ぎ」とは大きく異なることを知りました。自分が今までいかに狭い世界しか知らずにモノづくりを考えていたのかを思い知らされました。

研修を終えるといよいよ配属です。配属当初は客先に近い事業部で、そして今は研究所で市場から求められる製品に向き合っています。日々の業務をこなすことで精一杯ではありますが、今まで学んできた知識・経験を総動員させてのモノづくりは、とても面白いものです。目標とする数

値などの成果を出すことで、人々の暮らしの豊かさに貢献できることは、学生時代に体感できなかった喜び・やりがいにつながっています。今日では、上司への報告の際、結果や考察に加え、今後の指針となる「提案」ができるようになりました。提案するうえで大切にしていることは、独りよがりにならず、お客様が求めるものを提案すること。この考えは、学生時代に経験した就活情報誌の出版を通して学んだ「読者が求める記事を書くことの大切さ」から生まれています。研究職に就いており、学生時代の専門知識がダイレクトに活かしているのですが、課外活動の経験が活かってくる場面も度々あります。

在学中、研究留学など多くの挑戦の機会を提供して下さった山形大学・職員の皆様に心から感謝しております。温かく誠実な方々に支えられながら、世界各地の人々・自然景観への貢献を信じて、今日も私は東奔西走しています。

平成27年度工学部年間予定表

前期(平成27年4月1日～9月30日)

春季休業：4/1(水)～4/6(月)

入学式：4/6(月)

授業期間：4/9(水)～7/22(水)

定期試験：7/23(木)～7/31(金)

補講期間：8/3(月)～8/6(木)

夏季休業：8/7(金)～9/30(水)

後期(平成27年10月1日～平成28年3月31日)

授業期間：10/1(木)～12/24(木)

開学記念日：10/15(木)

冬季休業：12/25(金)～1/10(日)

授業期間：1/12(火)～2/2(火)

定期試験：2/3(水)～2/12(金)

補講期間：2/15(月)～2/19(金)

春季休業：2/20(土)～3/31(木)

学位記授与式：3/20(日)

平成25年度 一般会計収支決算書 及び 平成26年度 一般会計収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	平成25年度			平成26年度 予算額	摘 要
	予算額	収入済額	増減		
会 費	21,138,000	19,246,500	△ 1,891,500	21,053,500	[会費内訳] 昼 間 コ ー ス @26,000円×584人 フレックスコース @26,000円×54人 3 年次編入学 @13,000円×11人 博士前期課程 @13,000円×298人 博士後期課程 @19,500円×23人
雑 収 入	2,000	1,963	△ 37	2,000	預金利息
繰 越 金	628,917	628,917	0	429,866	
合 計	21,768,917	19,877,380	△ 1,891,537	21,485,366	

支出の部

項 目	平成25年度			平成26年度 予算額	摘 要
	予算額	支出済額	残 額		
1 学科厚生補導費	1,241,600	1,242,300	△ 700	1,235,400	
学部学生指導補助費	569,600	569,600	0	559,200	入学現員で各学科に配分
学科行事等補助費	672,000	672,700	△ 700	676,200	入学現員で各学科に配分
2 一般厚生補導費	2,748,500	3,356,248	△ 607,748	3,476,000	
国際交流関係補助費	500,000	276,101	223,899	500,000	外国人留学生に関する行事等への補助
学務関係補助費	800,000	1,645,463	△ 845,463	600,000	1 年生研究室見学等補助
TOEIC-IPテスト補助費				1,000,000	TOEICテスト補助
保健管理関係補助費	100,000	46,391	53,609	100,000	定期健康診断等補助
理容部運営補助費	450,000	489,268	△ 39,268	400,000	国有財産使用料、光熱水料
基盤教育事業後援費	898,500	899,025	△ 525	876,000	昼間コース 1 年生@1,500円×584人
3 進路対策補助費	100,000	15,220	84,780	100,000	就職ガイダンス、書籍購入費補助
4 学生研究助成費	1,000,000	815,315	184,685	900,000	学会発表補助 @5,000円×180人
5 課外活動補助費	400,000	304,028	95,972	400,000	サークル活動への補助
6 一般体育設備等補助費	400,000	405,057	△ 5,057	400,000	体育用具購入等
7 厚生施設等環境整備補助費	500,000	0	500,000	400,000	学内環境整備補助
8 研修行事等関係補助費	150,000	140,000	10,000	150,000	技術部職員研修補助
9 学部渉外関係補助費	1,200,000	519,228	680,772	1,000,000	会議等補助
10 大学行事補助費	2,000,000	1,699,525	300,475	1,700,000	学位記授与式・祝賀会、科学フェスティバル実施補助等
11 運 営 費	3,250,315	3,013,071	237,244	3,050,315	
会 報 費	550,000	496,683	53,317	550,000	「工学部だより」発行
会 議 費	300,000	353,465	△ 53,465	350,000	理事会、会長・副会長会議
通 信 費	20,000	14,890	5,110	20,000	切手購入、郵送料
事務費（含人件費）	1,100,000	876,971	223,029	1,000,000	事務局職員の給与、事務用品購入
旅 費	150,000	154,950	△ 4,950	150,000	他大学研修視察旅費
地区別説明会費	1,000,000	1,015,797	△ 15,797	850,000	保護者懇談会旅費等
学園都市推進協議会費	100,315	100,315	0	100,315	負担金
雑 費	30,000	0	30,000	30,000	
12 積 立 金	500,000	500,000	0	500,000	
13 施 設 協 力 金	8,130,000	7,402,500	727,500	8,097,500	定期預金へ
14 予 備 費	148,502	35,022	113,480	76,151	
合 計	21,768,917	19,447,514	2,321,403	21,485,366	

平成26年度 工学部後援会役員名簿

役 職	氏 名	所 属
会 長	学 外 上 村 勘 二	
副会長	学 外 長谷部 利 信	
	大 学 院 2 年 石 附 義 和	機能高分子工学専攻
	大 学 院 2 年 面 川 日 呂 樹	物質化学工学専攻
	教 授 多賀谷 英 幸	学務委員会委員長(バイオ化学工学分野)
理 事	教 授 山 本 修 修	同 副委員長(応用生命システム工学分野)
	大 学 院 2 年 吉 田 幸 雄	バイオ化学工学専攻
	大 学 院 1 年 後 藤 直 幸	応用生命システム工学専攻
	大 学 院 1 年 渡 辺 健 一	情報科学専攻
	昼 間 4 年 佐 藤 武 雄	情報科学科
	昼 間 4 年 安 原 和 子	情報科学科
	昼 間 3 年 山 口 弘 巳	物質化学工学科
	昼 間 2 年 長谷部 洋 典	応用生命システム工学科
	昼 間 2 年 伊 藤 博	電気電子工学科
	昼 間 1 年 鈴 木 涉	機能高分子工学科
	昼 間 1 年 情 野 譲 治	電気電子工学科
	昼 間 1 年 情 野 正	機械システム工学科
	フレックス 4 年 小 川 隆	システム創成工学科
	フレックス 3 年 渡 部 健 二	システム創成工学科
	フレックス 2 年 楠 田 仁	システム創成工学科
	フレックス 2 年 清 野 清 幸	システム創成工学科
	フレックス 1 年 渡 邊 広 明	システム創成工学科
監 査	学 外 山 崎 洋 一郎	(一社)米沢工業会理事長
	学 外 鈴 木 利 雄	(一社)米沢工業会常務理事
	昼 間 3 年 鈴 木 隆 宣	バイオ化学工学科
幹 事	昼 間 3 年 梶 川 不 二 雄	機械システム工学科
	教 授 妻 木 勇 一	前学務委員会委員長(機械システム工学分野)
	事 務 部 長 高 橋 俊 一	
顧 問	学 務 課 長 高 橋 淳 宏	
	学 務 課 副 課 長 岡 一 宏	
	学 務 課 上 席 係 長 佐 藤 俊 次	
顧 問	工 学 部 長 飯 塚 博	
	前 会 長 山 森 茂 一郎	

お 知 ら せ

◎学位記授与式・祝賀会のご案内

日 時：平成27年3月21日(土) 午前10時30分から
 式 典 会 場：米沢市営体育館 米沢市金池3-1-62
 祝賀会会場：グランドホクヨウ 米沢市金池2-3-7

◎入学式のご案内

日 時：平成27年4月6日(月) 午前10時30分から
 式典会場：山形県体育館
 山形市霞城町1-2 霞城公園内

◎各種相談の窓口

学務課学生支援担当(☎0238-26-3017)
 →授業料免除、奨学金、就職、インターンシップ、
 休・退学、留学、学生寮、サークル活動、
 健康相談、こころの悩み

学務課教育支援担当(☎0238-26-3015)
 →教務(授業・履修・成績)、教員免許、
 諸証明書発行、転学部・転学科、
 科目等履修生、T A

学務課入試担当(☎0238-26-3013)
 →各種(学部・大学院)入学試験、編入学試験

イベント紹介

山形大学の先端研究に触れてみよう！
山形から未来を照らすサイエンス
 — 見る・聞く・感じるイノベーション —

2015年5月2日(土)～6日(水) 国立科学博物館

(〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20)

AM9:00～PM6:00

※入館は閉館時刻の30分前まで

■主催：国立科学博物館、山形大学

■共催：米沢工業会

特別講演会

■日時／5月2日(土)PM1:30～PM5:20

■場所／国立科学博物館 日本館2階講堂

講師／小山清人学長・城戸淳二教授(機能高分子工学科)・古川英光教授(機械システム工学科)・田中賢教授(バイオ化学工学科)・井上健司教授(応用生命システム工学科)・奥田慎一様(山形大学工学部機械工学科修士課程S49年修了 東レ株式会社専務取締役)

※講演者は変更になる可能性有り。 ※申込方法は、3月末に山形大学・フレックス大学院HPに掲載予定。 ※講演会は参加無料。ただし入館料は必要。

【後援会通信】 現在、工学部後援会HP立ち上げの準備を進めています。様々な情報提供の場として、また保護者のみなさまとの繋がり場として、運用して参ります。是非ご利用ください。

山形大学工学部後援会事務局

〒992-8510 米沢市城南四丁目3-16 TEL:(0238)26-3017 FAX:(0238)26-3406
 山形大学工学部ホームページ <http://www.yz.yamagata-u.ac.jp/>